

第 2 回 八代港被災施設復旧技術検討委員会

議事概要

1. 日 時：令和 8 年 8 月 28 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分

2. 場 所：福岡第二合同庁舎（福岡市博多区博多駅東 2 丁目 10 番 7 号）

Web 併用

3. 議事概要

第 1 回委員会の意見を受けて実施した鋼部材の変位等の現地調査等を踏まえ、被災施設の調査及び検討の実施状況、被災状況を踏まえた被災メカニズム、復旧の基本的な考え方（案）及び八代港復旧設計方針（素案）について説明し、意見交換を行った。出された意見をもとに第 3 回委員会に向けて八代港復旧設計方針のとりまとめを進めることでした承された。

（主な意見）

- 鋼部材の変位等の現地調査結果は、既存鋼部材の残存耐力の評価が重要であるため、初期値や計測位置・方法と変形モードを整理する必要がある。
- 現地調査結果を使った再現計算から既存鋼部材の残存耐力を評価して復旧設計を行う基本的な流れは了承するが、今までにない新しい手法で復旧設計を実施することとなるため、従来の設計方法などとあわせて総合的な判断が必要であり、個別の設計時に議論することが重要である。
- 復旧設計の考え方で、この港全体を将来どう使うのか、どういうレベルのものに復旧しないといけないのかという議論が重要である。原形復旧でいいのか、再度災害防止なのか、耐震化するのかという大前提の方針が必要である。
- 早期復旧の観点を踏まえた復旧工事のスケジュールの設定にあたっては、利用者の利便性に留意する必要がある。
- コンテナターミナルの復旧方針については、被災メカニズムなどを踏まえ、ターミナル全体を確認する必要がある。